

## 「堂々と胸はって共に生きよう」(あゆみ幼稚園園長・鈴木先生)

育ち合い・育て合いの草分けがいま熱く語る 2月7日(TOKO講演会)



(お話の概要)

70歳を過ぎているので園長をやめるつもりだったが、後縦靭帯骨化症と線維筋痛症という二つの病気で、障害を負ってしまったため、こういう体になったからやめるというのでは、共に生きようと言ってきた自分の考えに反すると思い、続けている。

40年前にあゆみ幼稚園を作ったとき、人間として生まれしてきた子供は、障害があろうがなかろうが全て受け入れようと、若い先生達と話し合った。

ある時、目の見えない一美ちゃんが明かりを頼りに歩いているとき、男の子が足を出し、一美ちゃんは

転んでしまった。その子は、一美ちゃんはほんとに先生達が言っているように目が見えないんだろうかと思って、足を出した。ほんとうに見えないんだと知って、その子は一美ちゃんが卒業するまで、いす運びとかお手伝いをした。

足に障害があり家で過ごしていた子どもは、最初笑顔がなかった。先生が声をかけても変化がなかったが、子どもたちが入れ替わりそばに行って、くん、と声をかける。返事が返ってこなくても、声をかけ(次頁へ)



### C O N T E N T S



あらゆる場面で、共に生きることを大切に 鈴木一義先生のお話	2
TOKO 2009 アンケート結果	3
桜に託す共に学ぶ高校への思いと歩み	5
壁に立ち向かう卵として	6
日高高校への 公開質問状	7
文科省ついに就学指導手直しへ 共学か やわらかな分離か	8
誰でも参加できるイベント情報 / 高校へ行く理由は人それぞれでよい	9
共に学び・育つ TOKO 野外おしゃべり会	10

TOKO が初めてお手元に届いた方へ

TOKO を初めて目にした方へ

子ども達を分け隔てなく育てるために

どの子も一緒に地域の学校へ通えるように

地域へ、行政へ、働きかけている会です

ぜひ、一度のぞきにきて下さい 待っています

る。大人だと、返事がないと、次の言葉が出てこない。子どもはたくさんいるから、次から次へといろんな子どもたちが声をかける。大人が食事を食べさせようとする拒否するが、子どもたちがスプーンで食べさせようすると、喜んで食べるようになった。

学校とは何を学ぶのか。2 + 2が4になるとか、この字はなんなのかという知識だったら、家庭でもできる。あるいは、訪問教育として、家に来てもらって教えてもらうことだってできる。けれど、ほぼ同じ年齢の子どもたちがみんな集まって、相互に刺激し合って、心を育てていく、学校とはそういう場所だと理解していただければ、どの子どもも受け入れたくなるはずなんだ。

今年4月から学習指導要領が変わるので、文科省が各ご家庭に「生きる力」という冊子を配っている。私は、「共に生きる力」としてほしい。健康な人達でもひとりで生きていけるのかといえ、身の回りのことはできるだろうが、心は育たない。昔、障害があるとか、他と違いがあると、種族が違うとか、悪魔に取り付かれているのではとって、差別した。科学文明が発達しても、さまざまな差別がある。障害者差別もその一つ。文科省が進めている特別支援教育の推進のために、知的な発達の遅れとか、発達障害の早期発見をということで、いろいろ言ってきている。幼稚園への指導資料にも、「こんな様子はありませんか？」というのがある。「他のことに気をとられて着替えがなかなか進まない」、「極端な偏食」、「持ち物をよくなくす」……こんなことは、大人にもよくあること。



人は雑穀米。16種類とかある雑穀米を播いたら、16種類の芽が出る。100人いれば100通りの生き方がある。

幼稚園、小学校、中学校、高校、あらゆる場面で共に生きることを大切にしていかないと、どこかで分けていくと、お互いに違った人種のようなまなざしで見ようになってしまう。みんなできる・できないはある。聞こえる・聞こえない、話す・話さない、そんなことは関係なく、共に生きていくために何ができるか、お子様をお預かりしたときに、そこから考えていけばいい。

日本人が一番得意な言葉、万が一という言葉。万ーっていうのは、万分の一の話。そのことにおびえて、校長先生も教頭先生も、ああでもないこうでもない理由をつけて、拒否しようとする。先生に、万一のことがあったらどうしますって言われたら、万分の九千九百九十九は大丈夫なんで受け入れてくださいと、堂々と胸を張って、普通小学校、普通中学校、高校、そして社会に出て、共に生きていきましょう。

(2月7日、TOKO主催で、TOKOの子どもたちがたくさん卒園しているあゆみ幼稚園の園長・鈴木一義先生の講演会をもちました。会場はそのあゆみ幼稚園。1時間半ほどお話ししていただいた後、会場の質問に答えながら、さらに熱く語っていただきました。会場には、卒園生、在園生と家族、若い職員の方々など、多彩な顔ぶれがぎっしり。全記録はテープおこし完了、ただいま校正中です。)



# TOKO2009アンケート結果

(新しい年にあたって、お願いした読者アンケート結果 今回は前半を紹介します)

## 1. 新年号で関心をもたれた記事は何ですか。どんな関心をもたれましたか？

(やはり、高校入学と就学相談に関心が集中しています。)

「わかりますか？高校入学をめぐる争点」(下記の方のほか2名)

- ・子供が保育園という年齢なので、まだまだ高校入試のことは考えられず、こういうことがあるのかという興味を持って。(さいたま市・K)
- ・受け止めた高校、教員への支援が必要ということに本当に同感です。弱視で地元の中学ですが、拡大教科書と拡大コピーで高校受験を目前にし、昨年末は進路先を決定するのに20校近く足を運びました。埼玉、都内の私立校はだいぶ断られました。公立高校はどの学校も「あまり心配されず相談に来て下さい」など感じの良い学校が多かったのですが、40人学級がほとんどで、入学したはいいけど、今の中学とさして状況は変わらない様子...今、何とか頑張っている状態、学力も低下...うちの場合は悩んだ末、都立の盲学校進学を決めました。(宮代町・S)
- ・「高校入学の争点」の記事を読み、埼玉県の立ち遅れに、変わってほしいと強く思いました。(川口市・K)

「共に学び、育つための就学相談会」

- ・こんな頃もあったなと思い、初心にかえらせてもらった。(春日部市・I)
- ・子供を小学校に(普通学級)に行かせ、毎日付き添い、色々な思いをしたことを思い出しました。(草加市・K)
- ・実際に参加させて頂き、こういう考え方があるんだということを知り、改めて記事を読むことで自信につながりました。(上尾市・S)
- ・様々な実情がわかりました。(川越市・Y)
- ・少しズレますが、私の知人は養護学校で長く教員をしています(教員も分け隔てられているのでは?)、良い人なのですがすごく支配的で、なぜか人を傷つけてしまう淋しい行動があります。(春日部市・Y)
- ・未だに進学の時期になると悩み苦しむ人達がいるのが腹立たしい。(草加市・N)

「TOKOとの出会い・揺れながら一緒に」

- ・何とんでも体験談に関心があります。自分の事を思い出してみたりしながら、この先どうしたら良いのかを改めて考えることが出来るので。(草加市・F)
- ・同じ位の子供を持つお母さんの体験談だったため。(春日部市・H)

「あゆみ幼稚園園長先生の講演」要項、誰でも参加できるイベント情報(1名)

## 2. あなたとご家族の近況をお知らせください。

(読者の多くは障害のある子ども・大人の親。アンケート葉書で近況をお聞きするのが楽しみ。)

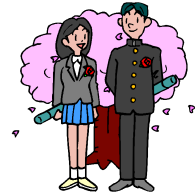
- ・今年、2つ上の姉が大学受験でセンター試験やオープンキャンパス(家族で一緒に出掛けた)など、大学

- に関することを間近で見聞きし、大学に興味を持っている。本人は大学へ行きたいようだが勉強があまり得意ではないので、どうなることか？(春日部市・I)
- ・上の子は中学に4月から進学します。私は家族に家事を9割がた手伝ってもらって、仕事三昧の毎日です。下の子の反抗期の接し方が目下の課題です。(春日部市・Y)
  - ・息子は現在23歳になり、公立中、公立高校の定時制に行き、途中で辞めましたが大検を受け、1時間以上かけて電車である企業に勤めております。アドバイスありがとうございました。(草加市・K)
  - ・娘(5歳)は12月に医療機関で新版K式の発達検査を受け、その結果を元に、担当医から「普通級」と言われました。そのため、当面は軽度発達障害児の普通級における特別支援の問題に力を注ぎたいと思います。いずれは重度の方も含めた障害者福祉全体に耳を傾ける必要があるのですが、余力がないので、しばらくは我が家の問題に集中したいと考えます。(さいたま市・K)
  - ・中学2年になり、学校に慣れてきたので、トラブルも少なくなり、嫌がりながらもどうにか中学に行っています。(春日部市・K)
  - ・7歳の脳性マヒの息子は、昨年から地元の特別支援学校に通っています。普通学校へ入れることも考えましたが、配慮のある場所でゆっくりこの子のペースで学ぶことも有益と考えての決断でした。入学後、他の学校では、1年生は1学期はお互いの学校に慣れることが優先、と交流は2学期以降になるところ、他小学校と同じ市立同士ということもあり、1学期のうちから2回、2学期2回と...に参加することが出来ました。その関りの中で、受け入れ側の小学校の対応に優しさからくるものとはいえ、見えないバリアを感じました。特に教員の対応。恐らくその教員のこれまでの人生に障害者と関ることがなかったのだと思いますが、まるでお客様扱い。子供の方が自然体で接してくれていました。これまでの社会が、障害者が隔離されて生活していたことの証と感じました。少しずつ変えていかないと仕方がないのかな、と痛思しています。(さいたま市・S)
  - ・息子のことで、夫婦で話し合い、学区内の普通学級に入学させることに決めました！そして、通級という形で支援のある学校にも手続きをとりました。実際に通う学校の校長先生にも話を聞いてもらったり、通級の見学など前向きに、自分(親)も冷静になって頑張っています！(上尾市・S)
  - ・デイケアの施設にて週2～3回程パン作りに行っている。本人が絶対に行きたがる事がおもしろい。決まりきった事(不変)が落ち着くのかな？(草加市・N)
  - ・子供は保育園の年少。ことばの教室の先生から保育園だけではなく、時々デイ・サービスの少人数の教室(?)に通った方が良いのでは、と言われ悩んでいます。(春日部市・H)
  - ・去年はいつものように学校は休むことなく元気に通いました。担任の先生も「友達と楽しくやってますヨ」という言葉をくださって、少しながらホッとする半面このままでいいのか...この先どうしたらいいのか考えています。(草加市・F)
  - ・娘(小2・地域通常学級)は充実した学校生活を送っています。精神的にも想像以上の成長で、「養護判定」をおしての通常級入学を、今の段階では良かったと思っております。私(母)は、障がいのある子供達の将来の自活を応援する活動「カラフル」を始めて1年半になります。(川口市・Y)
  - ・小6の息子は、徒歩30分位の特学のある中学校に、春から通うことになりました。(川口市・K)
  - ・息子は花咲徳栄高校に入学し、画家になるという夢を持ち、元気に通っています。私達も息子の夢を応援しています。気持ちに少しゆとりがでてきました。(春日部市・N)



# 桜に託す共に学ぶ高校への思いと歩み

2009年春の高校入試と斉藤君の卒業問題



## 今年も桜が散って...

今春、どの子も地域の公立高校へ！埼玉連絡会としては、吉井くん、田端くん、水沼くんといういずれも知的障害のある3人が県立高校を受験し、そのための交渉を教育局と行ってきました。しかし、3人とも、前期・後期いずれも不合格にされました。とりわけ、4年目の受験となった吉井くんの場合は、後期で日高高校が定員割れになり、教育局が「定員内不合格はあってはならない」、「強く指導する」と確約していたにもかかわらず一人だけ不合格にされました。

## できる子もできない子も、障害のある子もない子も

いまの県立高校には学力信仰が蔓延し、できる子を集める高校からできない子の受け皿の高校まで、生徒達を輪切りにしています。中途退学の原因について、県教育局は「目的意識が希薄」、「基礎学力」、「集団に不適應」、「非行・問題行動」の4つに分類して対応を考えており、障害（特に知的障害）のある生徒など論外という先入観の一因となっています。そして、障害のある生徒には高校でなく養護学校があるはずだという偏見がそれを裏打ちしています。しかし、NNNドキュメント（3・8）は、県立高校の中退率や成績は家庭の貧困と密接な関係があることが調査でわかったと、伝えています。4つの原因といわれるものも、貧困の世代間連鎖に起因しているというのです。

「共に生きる社会」をめざそうというなら、せめて県立高校くらい、できる生徒も、できない生徒も、障害のある生徒もない生徒も、一緒に学び・育つ体験を積み重ねてゆけないのでしょうか。昔は「高校教育を受けるに足る能力と資質」のある一部の者だけが行く場だった「高校」ですが、その後ほとんどの若者が高校を希望する時代となり、彼らの「15の春を泣かせない」という誓いの下、県として県立高校を整備してきたはずです。その意味で、今春の3人の受験は、私立と異なる県立高校の存在理由を問いかけるものでもありました。

## 教育局の「公平・公正」は穴だらけ

その後、2次募集を終えて、けっきょく水沼くんだけが、鴻巣高校定時制に合格し、吉井くんはまたも不合格にされ、田端くんは2次は受けませんでした。教育局は「障害による不利益がないように配慮する」として、点字受験や別室受験などの配慮を行って公平性を維持していると言っていますが、知的障害のある生徒を学力で選抜するということが自体が不利益だということ、誰が考えてもすぐわかることを、依然として認めていません。学力信仰ゆえに、たとえ定員枠が空いていても、できない生徒、しゃべれない生徒は落としても許されると、校長はたかをくくっています。「定員内不合格は許されない」とのたまう局は、校長を呼んで指導する「事前協議」の場を設けていますが、驚くべきことにこの重要な「協議」に関して、記録もメモも取らないというのですから、できレースと見られてもしかたがないと思います。

## その場をつくろうのみの主席交代劇

埼玉県教育局の無責任さは、障害児の高校入学等についての交渉を「教育長の意を体して」行う局側の代表である高校教育指導課主席が、毎年必ず異動に（多くは課長に昇任）になってしまうことに凝縮されています。1月～3月の入試期間を、直接の選考を行う高校のせいにして切り抜けさえすればいいという、安易な道が用意されています。そして、4月になると、新しい主席の下で、連絡会として一から説明を始めなければならなくなります。少し理解ができたかと思うと、もう入試になってしまい、局としての経験や理解、情報の積み重ねが乏しいことが、埼玉の特徴であり、早急な改善が望まれます。

## 制度が変わる来春入試はどうなる

すでに年度が替わり、来春の入試では、制度が大幅に変わり、点数主義がさらに徹底します。それをささやかに補うかのように、障害者への配慮をなにがしかの点数としてカウントすることができるようになります。すでに東京、千葉、神奈川等で行われていることを、埼玉県教育局流にアレンジしたのですが、全体として点数主義が強まる中、どれほど有効か疑問です。このことも含め、今後の交渉は多くの課題を抱えることになります。

### 共生社会にむけた単位・卒業認定を

さらに、今継続中の問題として、斉藤晴彦くんの大宮商業定時制での卒業認定問題があります。高校側は、4年間他の生徒と共に過ごし、4年生の3学期を迎えた斉藤さんと両親に対し、「生活進級」で単位認定をしてないから、卒業もできないと、通告しました。他の生徒には赤点でも補講を課して単位を与え、「とにかく学校に出て来れば卒業させる」とハッパをかけながら、クラスで最も出席のよい一人である斉藤くんには、同じクラスにいても、籍の上では1年生にとどめていたというのは、差別以外のなにものでもありません。どうしてこのようなことが起こったのか、斉藤さんと両親は、いま高校に対し情報公開請求中であり、そこで公開された資料をもとに、さらに話し合いをしてゆきます。



## 壁に立ち向かう卵として

斉藤晴彦父・斉藤晴一

単刀直入なお願いです。息子は特例で入学したようですから、特例で卒業させてください。先日は、卒業生を送る会で、記念品までいただきました。本人も皆と一緒に卒業できると信じていましたが、まわりの状況を察してか、しきりに身の処し方を尋ねてきます。どう返答していいのでしょうか。

4年間一生懸命通学した事に、学校側は何の理解も示さず、ゼロという回答です(履修と修得は違い、結果ゼロです。全てとはいいいませんがゼロです。卒業できませんとの事です。)

非常に不満です、卒業させて下さい。だめの場合は、時間とお金を返して下さい。

先日、作家の村上春樹が、イスラエルの講演で、卵と壁の話をされました。その中で卵は壁の圧倒的な強さの前ではなすすべもなく打ち碎かれるが、卵は小さな力を合わせる事で、それに対抗できるとの旨を述べています。

今回の晴彦の置かれている状況を、それに照らし合わせてみると、何故か事々が一致するように感じられます。

優しい支援の方々にも励まされながら、何の力もない個が、学校生活の中でただ一つの武器である出席数で戦おうと、精一杯努力し、対抗しました。ですが、不当な力の前で、あっという間にその殻は打ち砕かれ、中身を出そうとしています。力の無い個々の結集が、何の意味も持たない有様です。悲しい事です。あたたかさの無い現実です。

学校では、生徒たちに共存とか共生という社会生活のあり方を教えているはずですが、しかし、それは空しい言葉遊びの様です。教える側にその意識のまるでない言葉遊びの様です。

社会はいろいろの人達の集合体です。その中には、当然生まれながらに障害を持つ人、不慮の災難から障害を持った人達も含まれます。旧社会時なら、それらを見捨てて、社会の維持は図られたでしょう。

けれど、私達が暮らす今は、近代社会です。差別を無くして全てが平等の権利を有する事をめざす(真の社会秩序を創り上げる)近代社会です。

出来ない人に武器を振りかざす教育は、間違っている。共存・共生を教える資格はない。

(以上、学校との話し合いで述べた事です。)

2009年3月5日

2009年3月6日

埼玉県立日高高校

校長 野沢雅美 様

埼玉県坂戸市石井 2898-13-409

吉井 敏

吉井 真寿美

### 公開質問状

平成21年度埼玉県立高校後期入試におきまして、私どもの長男英樹が定員内にも関わらず一人だけ不合格になりました、3年間受検し、本人なりの努力を重ねてきましたが理解されず、不合格の理由についても、曖昧な回答で到底納得のいくものではありませんでした。

埼玉県の教育のあり方とともに、今後障害のある生徒の教育を受ける権利がどのように保障されていくのかということにつきまして、以下のことについてご回答をお願いいたします。

なお、3月6日の合格発表の際に約2時間半にわたり説明がありました、それに基づいての質問であるため、文書にするには時間はかからないものと思います、3月11日(水)午前10時半にこちらから受け取りに出向きますので文書での ご回答をお願いします。

不合格の理由のなかで、選抜基準に達していないと言われましたが、選抜基準を詳しく提示してください。

税金で運営されている公的機関である県立高校で定員内にも関わらず選抜基準を設けるのはなぜでしょうか？

定員内で点数が一般の生徒と大きくかけ離れていたといわれ、一人だけ不合格にされました。学力を基本とした選抜では知的障害のある生徒の障害による不利益を無視することになります。これは差別であり、絶対にあってはならないことです。もし、障害者差別ではないとする根拠があるならば選考会議の記録とともに明らかにしてください。

不合格を決断するにあたり、校長の裁量でと言われたり、県の制度に沿ってと言われたり、極めて曖昧でした。どの部分が校長の裁量でどの部分が県の制度に従ったのか、わかりやすく示してください。

定員内不合格を出すにあたり、高校教育指導課長との協議が必要という規則がありますが、その規則にのっとり協議した際の内容の記録を示してください。

001年の確約書に記されている「定員内不合格を出す場合にはそれ相応の理由が必要」とありますが、本人の障害以外にそれ相応の理由とはなんだったのか明らかにしてください。

教職員への研修について、日時・回数(研修時間)・内容について明らかにしてください。

「教育環境を整備していくべき学校や教育委員会としては、国の動向を見ながら、受け入れへむけてのビジョンを示す責任がある」はずですが、どのようなビジョンを示されるのか、明らかにしてください。

小・中学校の同級生が高校を卒業し、進学・就職する時になってもなお高校教育から切り捨てられ続けている英樹の意志と希望を受け止めてください。それが「15の春を泣かせない」ために埼玉県が県立高校を増設・整備してきた責務だと考えますが、どのようにお考えでしょうか。

## 文科省ついに就学指導手直しへ

## 共学が柔らかな分離か

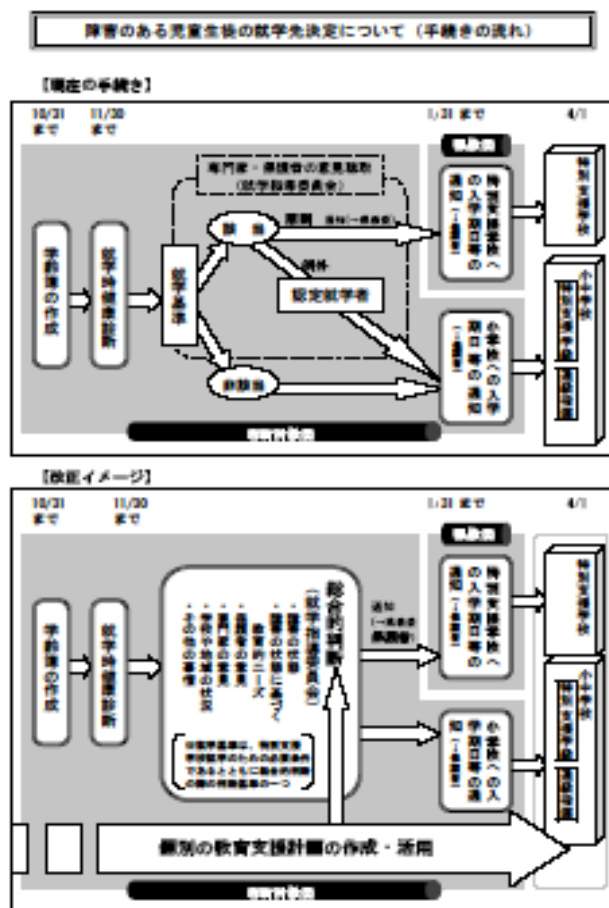
文科省は、2月21日、「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議（座長：高倉翔）」が、「特別支援教育の更なる充実に向けて（審議の中間とりまとめ）～早期からの教育支援の在り方について～」と題する報告書を取りまとめたと発表しました。ここでは、右図に示されるように、就学先の決定に関して「就学基準は、特別支援学校就学のための必要条件であるとともに総合的判断の際の判断基準の一つ」として、従来就学基準に該当すれば原則として「特別支援学校就学が望ましい」と判断してきたことを修正し、認定就学廃止の方向を打出しました。

その背景としては、下図に示されるように、特別支援学校が望ましいとされた子どもの2割が、実際には認定就学という形も取らずに小学校に就学しており、認定就学はその5分の1位の人数でしかないといった状況があります。すなわち、車椅子なら養護学校といった就学基準によって分けてきたやり方を、本家の文科省が「まずかった」と認めたのです。

もちろん、転んでもただでは起きない文科省は、「総合的判断」そして「個別の教育支援計画」のためとして、これまで以上に子どもを他の子どもたちから切り離された「個」として扱い、乳幼児健診、保育所、幼稚園、療育機関等との連携による早期からの分離の網や、就学後の継続的な網かけを強めることが重要だとしています。

また埼玉の支援籍のような居住地校交流は、「特別支援学校に通っている子どもも地域の子どもの意識啓発につながる」ものだと評価していますが、決して「本来はみな地域の普通学級で共に学ぶべき子どもなんだ」とは言いません。「地域の子どものみだけれど、分けられるべき子どもなんだ」という意識を根づかせていくという意味では、いま以上に怖いものがあるともいえます。

報告は、これが「障害者の権利条約」の「インクルーシブ・エデュケーション・システム」に沿うものだとしています。あなたはどうか考えますか？



市町村就学指導委員会等における調査審議及び実際の就学先の状況について

※平成18年度までの表記については、盲学校、聾学校、養護学校及び特殊学級とする。

	市町村就学指導委員会等の調査・審議の対象となった者の数（人）	市町村就学指導委員会等における調査審議の結果望ましいとされた就学先（人）			実際の就学先（各年5月1日現在）（人）		
		盲・聾・養護学校小学部	認定就学者として小学校	その他	特別支援学校	小学校	
合計	15年度	23,739	5,612	283	17,792	4,516	1,096
				52	283	0	283
				52	17,792	51	17,741
				52	283	2	28
	16年度	24,750	5,795	280	18,594	4,741	1,054
				81	280	0	280
				81	18,594	70	18,524
				81	280	3	56
	17年度	26,172	5,961	292	19,807	4,844	1,117
				112	292	0	292
				112	19,807	91	19,716
				112	292	6	76
18年度	28,466	6,369	296	21,760	5,136	1,233	
			41	296	12	284	
			41	21,760	63	21,697	
			41	296	0	1	
19年度	30,844	6,665	380	23,761	5,342	1,323	
			38	380	5	375	
			38	23,761	60	23,701	
			38	380	1	0	
20年度	33,022	6,791	374	25,818	5,428	1,363	
			39	374	1	373	
			39	25,818	112	25,706	
			39	374	0	10	



## 誰でもいつでも参加できるイベント情報



### 4月

日	曜	開始	イベント名	会場	連絡先など
13	月	19:00	どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会事務局会議	ぺんぎん広場(南浦和駅より15分)	どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会 048-737-1489
15	水	10:00	障害者の職場参加を語る会	職場参加ビューロー・世一緒(越谷駅東口10分)	障害者の職場参加をすすめる会 048-964-1819
26	日	10:30	春日部ふじまつり出店	春日部駅西口藤棚通り 住宅展示場そば	ぶていっく・ぶあく 048-738-0643 デイケア・パタパタ 048-733-2743

### 5月

日	曜	開始	イベント名	会場	連絡先など
10	日	10:00	TOKO 野外おしゃべり会	春日部・内牧パーベキュー広場(共栄大学前バス停徒歩10分)	白倉 048-752-7351(TEL&FAX) 中山 090-2202-5271 山下 048-737-1489(FAX:048-736-7192)
11	月	19:00	どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会事務局会議	ぺんぎん広場(南浦和駅より15分)	どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会 048-737-1489
20	水	11:00	アンテナショップ「かっぱファスタ」	埼玉県庁第2庁舎 南玄関前広場	県庁内福祉の店アンテナショップかっぱ 048-830-7788
24	日	10:00	障害者自立生活協会総会&記念シンポ「地域で共に生きるための公共交通とは(仮)」	埼玉会館	080-6608-1275(自立生活協会・植田)
28	木	18:30	共に働く街をひらくべんきょう会	越谷市中央市民会館	障害者の職場参加をすすめる会 048-964-1819
30	土	13:00	ケアシステムわら細工総会		048-738-4593 ケアシステムわら細工

### 6月

日	曜	開始	イベント名	会場	連絡先など
8	月	19:00	どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会事務局会議	ぺんぎん広場(南浦和駅より15分)	どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会 048-737-1489
13	土	10:00	ネットワーク合宿	国立女性教育会館 (東武東上線武蔵嵐山駅から徒歩で12分)	大坂 090-4938-8689 黄色い部屋 048-737-1489(FAX:048-736-7192)

### 高校へ行く理由は、人それぞれであってよい

(「障害児を普通学校へ」NO.274より抜粋)

「知的障害」者が高校へ行くことがどうなのか、という問いがありました。何のために高校へ行くか、それは人それぞれであってよいのではないかと私たちは考えています。

自分にとって高校生活とは何だったかを思いおこしてみたとき、勉強したことはあまりおぼえていない、という方も多いと思います。「英語も身につかなかったし、微分も積分も古文も漢文も今やれと言われてもできない。今の生活に役に立っていることが何かあるのか考えてしまう。高校で習った、1モルの硫酸水溶液を作ろうとしてもできない。学習についていけたかどうかでいえば、一応単位はとれたけれど自信はない」と言う方もいました。この方に高校に行った意味はなかったのでしょうか。

もう一方でこの方は、「高校生活を思いおこすと、死にたいくらい落ち込んだことも何度もあったけれど、今は、友だちとばか騒ぎしたり、活動したりした楽しい思い出が次々と浮かんで来て、やっぱり高校へ行って良かったと思える」とも語っています。

スポーツやサークル活動で充実した高校生活をおくった人もいます。かけがえのない友人と出会った人もいます。また、よくわからなかった数学や物理でも、高校でのその学びがきっかけとなって、自分の人生の方向を見つけた人もいますかもしれません。

ですから、高校で何を学ぶか、どんな生活をするか、それはその人自身が決めることだと思います。私たちと「障害」のない皆さんの間には「高校で学ぶ」ということイメージにかなり違いがありますが、みんなそれぞれのあり方で高校生活を楽しめれば良い、そんな高校になってほしいと考えてきました。そういう意味で、たくさんの「障害」者がこれまでも高校生活を送り、つらいこともあったかも知れないし、いじめられたこともあったかも知れませんが、そこを人生の通り道としてきました。その生き方は、誰も否定できないと思います。(障害児を普通学校へ・全国連絡会運営委員会)

# 障害のある人もない人も地域で



## 共に学び・育つ TOKO 野外おしゃべり会

5月10日(日) 10:00

春日部市・内牧公園バーベキュー広場

新緑の中、家族や友だちと一緒に、子どもも大人も、遊んだり、食べたり、おしゃべりしましょう。悩み相談・情報提供タイムもあるよ。

豚汁を作ります。主食とおやつは各自持参してください。楽しい一日をすごしましょう。

参加費：500円(食材・資料代)

わらじの会・どの子ども地域の学校へ/公立高校へ東部地区懇談会

【問合せ】 しらくら 白倉048-752-7351  
なかやま 中山 090-2202-5271  
やました 山下 048-737-1489

### 交通：

電車：東武線春日部駅下車(西口)

バス(春日部エミナス行き)共栄大学・共栄学園短期大学前バス停下車徒歩10分

自動車等：国道16号バイパス 梅田西交差点を白岡方向へ約2キロメートル

電話：048-752-8303(管理事務所)

